

## 農業は中高年男性の夢

フリーライター 竹内カンナ

定年後の夢は？ と聞くと、「農業」と答える都会のサラリーマンが驚くほど多いことをご存じですか？たとえば私の夫。53歳で東京で外資系の通信社に勤めておりますが、自分の食べるほどの野菜を作り、気の向いたときに魚を釣りながら田舎でのんびり暮らすのが夢なんです。彼はほんの一例。わたしの周囲の男性の二人に一人は農業に憧れているといってもいいほどです。

しかし実際に何かを始めている人はほとんどいません。数人で田んぼを借りて稲作をしている広告代理店勤務の大学の同級生が一人いるぐらいです。問題は、この人たちが憧れの農業を始める手掛かりが身近にないことです。昨年後半から食料の国内自給率の向上や、不況で職を失った派遣労働者の受け皿という観点から新規に農業に取り組もうという人を支援する体制整備が注目されていますが、これを拡充していくことが農業に新しい息吹を呼び込むことになると思います。

中高年サラリーマンの農業参入は、「農業従事者の高齢化も解消せず、規模拡大や効率化にもつながらず、日本の農業が抱えている問題の解決にならない！！」と農業関係者はおっしゃるかもしれません。しかし、いろんな仕事を経験してきた人々の視点が農業を変えていくのに役立つと思います。農業に憧れを感じる男性は、総じて仕事のストレスに命をすり減らしているまじめ人間です。農業を始めたら、きっと早朝から夜まで頑張った挙げ句、天候が不順だとか、思ったように生育しないとっては、ストレスを感じるのだらうと思います。とはいえ意欲は旺盛です。是非、農業関係者の方々に、もっとこの人たち

を支援することを考えていただきたいと思っています。

農業は生き物を育てるのですから、「気が向いたときにちょっと行って楽しむ」というわけにはいきません。土地も必要だし専門知識も必要です。土地を買った後で、農業の厳しさに気づいて後悔するようなことにはなつて欲しくないので、準備のトレーニングも十分にやって欲しいと思います。

以上のような経験を通じて、農業の厳しさや難しさをより実感するなかで農業を応援するファンが増えて行くことにもつながるのではないのでしょうか。

農業に憧れる人のために、私が期待しているのは、人材派遣事業の普及です。景気の急激な悪化で、製造業の「派遣切り」が問題になり派遣が「悪玉」になってしまいましたが、派遣というシステムも使い方によっては決して悪いことばかりではありません。一部の人材派遣会社が農業への派遣に取り組んでいますが、受け入れる農家の方はどのような考えなのでしょうか？不慣れな派遣社員など邪魔なだけかもしれませんが、少しずつ受け入れの窓口も拡げていっていただきたいものだと思います。

都会で働く中高年男性の農業参入のもう一つの障がいは、妻たちです。農業をやりたい男性に、奥様の意向を聞くと、(わたしを含めて)ことごとく、「どうぞ勝手にやってください」ということのようにです。女性の目を農業に向けるにはどうしたらいいか これも考えていかなければなりません。

(たけうち かな)